

2018年 10月 待ちかねた秋到来 神戸秋便り 2018.10.5.

from Kobe *小さい秋 みい~つけ!!* Mutsu Nakanishi

台風や集中豪雨そして地震 と 度重なるびっくりする災害発生に 仲間のことが気にかかっています

- 収録**
1. 本庶佑さん ノーベル賞受賞のうれしいニュース
  2. 環境負荷の高い鉄鋼業の今 かいまみたこと 廃タイヤの資源化



秋晴れの空 元気な孫の運動会にも行ってきました 2018. 10. 7. 神戸で

神戸の街には 陽気なストリートジャズが流れ、運動会 子どもたちの歓声が聞こえてきます 秋の青空が戻ってきた 10月実りを迎えた西神戸・東播磨の里の秋

うまい空気を胸一杯 吸い込んで 気分も新らた 今日も一日 Good Day!!

毎年 この時期 戸外に飛び出して 西神戸から播磨の里の秋 小さい秋さがし 今年も 西神戸 & 西播磨の小さい秋 みい~つけた!!



伊川谷 小寺の清水さんちの新米も届きました 2018. 9. 26.





初秋 西神戸 みのりの田園地帯を彩る彼岸花 伊川谷 & 白川の郷で 2018.9.26.



初秋 西神戸 みのりの田園地帯を彩る彼岸花 伊川谷 & 白川の郷で 2018.9.26.



志方広尾の田園地帯

志方の郷と小野市きすみ野を結ぶ小野アルプス福匂峠から見る棚田

きすみ野のそば畑



中国道沿いの志方の郷と小野市きすみ野を結ぶ小野アルプス福匂峠から見る棚田 2018. 9. 28.



東播磨 加東町から三木市吉川 酒米の郷 に秋を告げる風物詩 田園にはためく酒蔵の旗 2018.9.28. 加東町木梨の郷ほかで



秋の七草の一つ 萩の花 控えめな姿ながら、  
たくましさを感じさせることから、  
「思案」「内気」「柔らかな心」「柔らかな精神」の  
花言葉が生まれたという。

今年の秋 初めて知った本当の萩の花の姿です



待ちかねたラグビーシーズン開幕 開幕を飾る力強いスクラムトライに気分もスカッと 2018. 8. 31. 神戸ユニバー競技場で



秋季高校野球 兵庫県地区大会 市尼・西宮東戦の観戦 明石球場で 2018. 9. 23.



幾つになっても 心がワクワク 轟音を響かせて頭上を舞い上がる飛行機 孫と一緒に伊丹空港の滑走路の北端で 2018.9.24. 国道175号線車行橋横で

また、機体が大きくなったのに、飛行機の轟音が随分小さくなったのにはびっくり。昔の印象で言ったらいけないなあと。

いつもながら お付き合いいただき感謝 いっぱい。有難うございます。

年齢を重ねるとともに、好奇心はあれど、中々頭回らずで 段々とホームページ更新が難しくなって、不定期の更新になっています。お許しください。せめて もう少し鉄の謎が判るまで また、北東北の縄文遺跡が世界遺産登録まで続けようと。そんなことを頭に浮かべています。

秋の夕暮はつるべ落としそして、秋の夜長 くつろぎながら くじゅくじゅくと アレヤコレヤも また楽し  
 良し悪しは別にして、何はともあれ、変革の時代

若者たちに期待しつつ、また穏やかで、平和な安定をのぞむ。気持ちは「いたりきたり」です。

また、老化・病気など困難に直面している知人や仲間 過酷な災害に見舞われた人たちへ。  
 いつも 思いをはせています。「忘れまい 忘れないで 仲間がいることを」

なにはともあれ やっと戻ってきた晴れ渡る青空に思いを託し

今を元気に 今日も一日 Good Day !!

そんな気分を伝えたい2018 秋 前向いて 我が道を行く

from Kobe 2018. 10. 5. Mutsu Nakanishi



秋の夕暮 神戸山麓バイパス 神戸総合運動公園周辺で

## 1. 本庶佑さん 本年のノーベル生理学・医学賞 受賞のうれしいニュース

新聞やTVのインタビューやプロフィール紹介などの報道を眺めていて ふと頭によぎったこと



10月の始まり 秋到来

本年のノーベル生理学・医学賞に本庶佑先生受賞のニュースが飛び込んできた。

2012年の山中伸弥さんに続いての関西からのうれしい受賞。

おめでとうございます。

山中伸弥先生 本城佑先生 いずれも基礎研究に端を発し、頭でっかちにならず、長年地道な研究実践を重ねて、不屈の実践研究の成果での受賞が心に響く。

でもテレビや本や新聞報道などが伝える「巨人」お二人のプロフィール

その印象が違いすぎると。「人の良い山中伸弥先生 頑固一徹の本庶佑先生」と。

余りの印象の違いに戸惑いつつ、 どちらも巨人 」こうでなければならぬのかと。

いつも頭の中にあつり、悩んだこともあつた研究者像。どちらの研究者像が・・・ 本音は・・・・・・・・。

今回 TVの受賞インタビューで流れた 本庶先生の若い人へのメッセージ

「人の話のもとより、教科書や論文に書かれた事象は みんなウソやと疑い、

自分の目で確かめるのが一番大事。 私はそうして 研究人生を歩んできた」と

この言葉に 私の頭もいっぺんに反応。

「この言葉は若い人たちばかりでなく、今まさに日本が直面している課題。今の日本の情報社会の現実への警鐘」と。

政治・企業・経済・一極集中の社会のほころびが見える昨今 まさに今日本が直面している大きな実践課題、

今の日本の情報化社会の現実への警鐘とも聞超えました。

「100年に一度」「想定外」 ここ数年急速に広がり、嫌というほどいろいろな局面で聞いた言葉。

幕引きの常套句、なにも打開策は示さず、付け焼き刃的な話で 何とはなしに幕引きが回る常套手段。

反対でもすれば それこそ炎上。

でも 本音で言えば、生きている社会はすべて同じ一つの土俵の上。

「100年に一度」が集まれば、一つでなく 枚挙をいとわぬすごい数。

「社会」の土俵で見れば、「百年に一度ではない多数の事象」「想定外でないいつもの事象」

付け焼き刃の言葉で締めくくる事象でないのである。

政治家の言は論外にしても、こんなからくりがいたるところで起こっている。

なんの改善もなしに、付け焼き刃の幕引き操作が作作的に行われ、それが常態化している昨今である。

活動期に入った地球に 地球温暖化に端を発した異常気象の常態化が災害の多発に輪をかける。

何時 何処にいても 我が身に降りかかる災難 もう それが現実になってしまった今、

人任せにはできない。「自分の身は自分で守る」と言われても、どうすればいいのか・・・・。

日本では みんなその限界を知りつつ、人任せになって、流されてはいないか・・・・。

自然災害の脅威ばかりでなく、そんな事象が幾つもの。 例を挙げれば、枚挙をいとわない。

情報社会を謳歌する東京 権力の座にある老政治家・経済界・大企業の横暴と非正規の常態化

みんな 刹那の利益にしか目が向けず、真実が隠され、表と裏 不安社会の常態化を煽っていると映る。。

本年アマチュアスポーツや教育の世界の事例とそれに対するマスコミのあまりにもひどい対応姿勢

インターネット・スマホ社会の異常。「炎上」と称する村八分・世論誘導もまた目に余る

国際化・効率化・グローバル化の言葉が風化したら今度は AI・Big Data の言葉が踊る

これら野重要性は認識しつつも、言葉遊びで内容理解のない人間無視の演出はそれこそ社会を滅ぼす

知らなかったでは済まされぬ現在の情報化社会の現実。まさに本庶先生の警鐘そのものである。

今 日本の社会が 世界から取り残されず、疲弊から脱して、更に成熟してゆくのに一番大事なことであり、

本庶佑先生が指摘する一番苦手な姿勢 「なにごととも疑い 自分の眼で確かめる」であろう。

そんなことを思いつつ、眺めた本庶先生のノーベル賞受賞である。

でも 巨人お二人の研究で 多くの人々が救われ、社会が明るくなってゆく。ありがとう 益々お元気で。

2018.10月 From Kobe Mutsu Nakanishi

## 2. 環境負荷の高い鉄鋼業の今 工場見学でかいま見えたこと

### スクラップ再溶解の製鋼工場で 自動車の廃タイヤのリサイクル資源化 鉄鋼業がその受け皿に 環境負荷の高い鉄鋼業の資源のリサイクル 社会問題化した廃タイヤ・廃プラスチックへの取組

9月の末 新日鉄住金広畑製鉄所の工場見学会に参加させていただいて、熱延工場を見学させてもらった。

構内に入った途端 漂ってくるにおい・空気  
そして騒音までもが懐かしく心地よい。

昔が蘇り、ええなあと。

久しぶりに見る真っ赤に焼けて光り輝く鉄塊  
スラブが延延ラインを水しぶきを上げて、走り  
抜け、グングン伸ばされてゆく。

久しぶりにに入った製鉄所の工場内

忘れかけていた懐かしい思い出がメラメラと。

うれしい製鉄所 熱延ラインの工場見学でした。



インターネットから採取した大手鉄鋼メーカーの熱延ライン

### ◎スクラップ再溶解の製鋼工場で 自動車の廃タイヤのリサイクル資源化 鉄鋼業がその受け皿に

廃プラスチックの資源化に鉄鋼業が寄与しているのはよく知っていましたが、

廃タイヤのリサイクル資源化にも鉄鋼業が寄与していることを初めて知りました。

広畑製鉄所の製品素材を作る製鋼工場で主原料のスクラップといっしょに廃タイヤを細かく切り刻んだ廃タイヤチップを投入し、チップに含まれる鉄線は鉄原料 ゴムは熱源としてリサイクル。

また、コークス乾留技術のある製鉄所 この廃タイヤチップをロータリーキルンで乾留して、鉄と油と炭素固形分に分離して、夫々再利用する実証プラントも動いていました。

ゴムのなかに複雑に編み込まれた鉄線が入っているゴムタイヤ それらを分離処理するのは大変。

いたるところで、山積み放置されている。この資源化はたいへんだと思っていましたが、そっくりそのまま鉄ゴム鉄が含まれる細粒チップに細かく砕いて、そのチップの再利用で自動車廃タイヤのリサイクルが回っている。

その受け皿として、鉄鋼業の鋼製造プラントが大きな力になっていると初めて知りました。

約100万トン/年発生する自動車の廃タイヤ そのうち12万トンはこの広畑製鉄所でリサイクル資源として利用していると言う。(廃タイヤチップ 約6万トン/年を製鋼プラント 約6万トン/年を廃タイヤガス化実証プラントで処理)

資源のリサイクル そして 鉄鋼業にとっても環境負荷の軽減につながってゆく取り組み。

まだまだ、環境負荷の軽減に効果は小さいが、資源リサイクルそして 不法投棄防止には大きな役割。うれしい限り。

コークスを燃やして熱原材料を作り、溶鉱炉で鉄鉱石を溶解還元して鉄を作る環境負荷の高い鉄鋼業。最近話題に上ることも少なくなりましたが、鉄ワイヤとゴムとが混在して処理に手を焼き、いたるところで放置されてきた自動車の廃タイヤを熱源・製鉄原料の一部として、処理リサイクル。

鉄鋼業は環境負荷野極めて高い産業として 地球温暖化を進める張本人のように言われてきましたが、環境負荷軽減・廃棄物の資源化リサイクルに着々と実績を積んでいることを知り、うれしい限り。環境負荷の高い鉄鋼業の取組が更に発展すること期待。

再編が加速する世界の鉄鋼業。折しも、住金新日鉄は間もなく社名変更で「日本製鉄」になり、住金の名が消える。さらなる飛躍を期待して 鉄鋼頑張れ!!と。

